

麻生太郎 財務大臣とは「狩り友」です

議員

永田町のハイジ「牧島かれんが雌鹿狩りで猛烈アピール」

鳥獣保護法改正

「4年前、日本に生息する野生のシカは、約250万頭でした。それがいまでは500万頭以上に増えています。イノシシも100万頭近くに増え続けている。農作物が荒らされるなど、地方では被害が深刻化しています。そのため、自民党では鳥獣被害対

策に取り組む議論を立ち上げました。これも、その活動の一環なんです」
2月17日、自民党に「捕獲鳥獣食肉利活用推進議連」が立ち上がった。石破茂・地方創生相が会長を務め、森山裕議員らに参加する、通称「ジビエ議連」。その

中の紅一点が、神奈川17区選出の牧島かれん衆議院議員38、当選2回だ。
国際基督教大学大学院修了というインテリ。選挙区は神奈川県だが、17区には山林が多く、事務所にも鳥獣被害を訴える声が多かった。

「問題を調べるうちに、自分でも狩猟をやってみたいと思ったんです。昨年8月、捕獲のための罾の免許を取得しました。以来、県内の山を回って、シカやイノシシを狩っています」

ついたあだ名が「永田町のハイジ」。同じくハンティングが趣味の麻生太郎財務大臣とは「狩り友」なんだとか。

2月下旬、足柄上郡の山に狩りに行く牧島氏に、本誌記者も同行。この日、牧島氏一行は見事、雌鹿を仕留めた。

「魚はおろせませんが、イノシシは解体できます。皮を剥くときのコツは、イノシシの身体をピンと張ること。シカの解体は、今回が初めてですね」

そう話しながら、罾にかかったシカの心臓を、ハンティングナイフで一刺し。

「かわいそうと思いますが、この辺りも獣害に悩まされていますから。ハンターの育成は急務。山ガールならぬ狩りガールを増やしたいですね」

5月末にはシカ・イノシシの捕獲を推進する改正鳥獣保護法が施行される。今後、鳥獣被害を訴えるため、狩りを続けるという。

ちなみに、牧島氏は独身。男性のハンティングの方は？

「罾を仕掛けても、そっちはなかなか、かからないんですよ……」

昨年末の衆院選の当選祝いに、支援者からハンティングナイフをプレゼントされた。シカは、地元のイベントで振る舞われたという

